

9月議会の補正予算から。

東日本大震災の被害等へのさらなる対応【216,856千円】

・小中学校修繕、公園・道路の修繕等(災害分) 塩浜護岸施設災害復旧工事費、道路路面下調査委託料、液状化等被害住宅再建支援事業補助金等、他

市民からの様々な要望への対応【209,576千円】

・私立保育園補助金、母子家庭自立支援給付金、国府台スポーツセンター陸上競技場施設修繕料、地域コミュニティゾーン内少年野球場新設工事費、他

高齢社会などの将来を見据えた行政課題への取り組み【344,438千円】

・24時間定期巡回・随時対応サービス事業、障害者グループホーム運営費等補助金、老人福祉施設整備費補助金、他

償還金、その他必要となる経費【197,810千円】

・国庫負担金の償還金、勤労福祉センター分館外壁改修工事費、庁舎改修工事費、弁護士委託料、学校図書館調査研究事業経費、他

不用額の活用(財源対策)【138,463千円】

・総合管理委託等に係る契約差金、震災による事業の中止、工事等の入札差金、他 不用額が確定した経費を減額補正して有効活用を図るもの。

稲葉健二のコラム



今回幼稚園のことを特集しましたが、補助金にいろいろな種類や内容があり、実際にどれだけのものを間接的に受け取っているかわかりづらいものも多くあります。

よく税金を払っているから当たり前。」行政が面倒見てくれるのが当たり前。」という方もいらっしゃると思います。税金も無尽蔵にあるわけではありません。また、景気の低迷で市税収入も減ってきているのが現実です。今まで受け取っていた補助金やサービスが減ったり無くなったりすることで多くの苦情をいただくこともあります。

特に子ども達にかかる費用や高齢者の方たちにかかる費用、最近増えている生活保護の方たちにかかる費用はどの項目をとっても多くの税金が使われているわけです。公立幼稚園に通わせている場合は1万円に対して26万円使われていること。私立幼稚園に通わせている場合は年間1人当たり85万円の税金が使われています。放課後保育クラブ(学童)に対しても、利用者からは月8,000円いただいておりますが、実質経費として1人当たり約25,000円かかっています。加えて現在試行中の延長保育事業として経費の負担増は約600万円です。ここで言いたいことは、このようにいろいろな受益を受けれることは当たり前ではなく、ありがたいという気持ちを持っていただければ嬉しいと思っています。

「意見・要望等お気軽にご相談！」



市川市議会議員

稲葉健二の 一言メッセージ

36

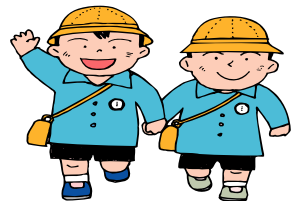
平成23年10月20日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

公立幼稚園のあり方について。

この9月議会に提出された議案に、「市川市立幼稚園の設置及び管理に関する条例の一部改正について」がありました。この議案は市立稲荷木幼稚園の廃園を審議するものでした。市川市には公立幼稚園が8園と私立幼稚園が32園あります。昔子どもが多くなり、私立幼稚園では対応できなくなったときに、私立幼稚園の補完を目的に市立幼稚園が設立された経緯があります。そのため人口の急増地域の中で小学校の敷地に隣接して設立している園がほとんどですが、行徳地域を除いて、少子化の影響で定員に対しての就園率が悪くなった園が目立つようになりました。10年以上前から今後の公立幼稚園のあり方が議論をされてきました。現在私立幼稚園も定員を割るところが出てきている中で、今後の公が行うべき役目は特別支援教育や公ならではのことにシフトすべきであるという結論が今回の条例改正提出に至った経緯です。公立幼稚園には学区があり、遠くの方は入園することができません。もともと近くに公立幼稚園がなかった地域の方たちは選択肢にもなかったわけです。公立幼稚園は入園料はなく、月の保育料は1万円です。単純に運営費から一人当たりにかかる経費は月26万円以上になり、その差額は市税で負担していることになるわけです。子ども達の教育にお金を惜しむことは私も反対ですが、そこに公立幼稚園がなければいけない議論とは違うと思います。先ほど書いたように、お金がかかる特別支援教育や指導者や経営者のスキルアップのために税金を投入すべきであると考えます。私は幼児教育振興審議会の委員として今回の問題に対して長い期間審議してきました。稲荷木幼稚園の後に「幼児教育センター構想」を実現すべきと提案もしてきました。今後の推移を見守りたいと思っています。

現在公立幼稚園に在園している児童数は1,197人。一人当たりにかかる実経費は年間313,343円(運営費のみで計算)保育料としての収入は年12万円。その差額が税金です。私立幼稚園に在園している児童数は5,196人。一人当たりに出ている補助金は年85,318円です。公私の差は10万円以上あるということになります。

今回の廃園が実行されることになったときに出る不用額数千万円は、子ども達のために使っていきたいと部長のご答弁にありました。期待したいと思います。



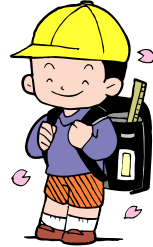
平成23年9月定例議会報告

平成23年9月定例議会が、9月2日～10月3日まで開催されました。下記の内容で一般質問を行い、真摯な御答弁をいただきました。質問の要旨を掲載いたしました。詳しくは、市議会のいちかわインターネット放送局で録画放送をご覧ください。
市川市議会 録画放送 9月22日へとお進み下さい。直接は <http://ibs.city.ichikawa.chiba.jp/ibsw eb/topPage.do?id=1635>です。

一般質問の主な内容は、

放課後保育クラブについて

- (1) 指定管理期間終了に当たっての方向性
 - (2) 試行で行われている延長保育の現状と今後の方向性
 - (3) 災害時に備えた対応について
- ア. 一斉メール送信を含めた環境の整備についての考え方
イ. 災害時に備えたマニュアルづくりや避難訓練について
ウ. 学校との連携について



来年の3月で市川市社会福祉協議会との指定管理期間が終了するに当たり今後の選定に対する考え方をお聞きしました。ご答弁は1団体選定で5年間の指定期間で市川市社会福祉協議会と結ぶ方向性を示していただきました。次に現在試行的に行われている延長保育の現状や課題についてお聞きしました。一部の保護者の方の中にお迎え時間が守られていないなどの現状をご答弁頂きました。今後は時間延長にかかる経費の状況なども含め検証し、よりよい運営を目指したいとのことでした。また、災害時の一斉メール送信などの環境づくりは、携帯電話などのメール機能や一斉メール送信、災害用伝言板等の活用も含めて検討していただけるとのことでした。災害時におけるマニュアルづくりも、より実効性の高いと思われるマニュアルに見直しを進めているとのことでした。避難訓練等は避難経路も含め、全保育クラブで見直しを図っており、さまざまな災害発生を想定した、避難訓練を行っていき、ピーピングスタッフなどとも連携し、学校を含めてより緊密な連携・連絡をとれるよう、それぞれに働きかけていただけると、ご答弁頂きました。

本八幡北口駅前周辺の再整備について

- (1) 現状と課題について
- (2) 駅前の立地を生かした福祉施設整備について
- (3) 今後の方向性について



本八幡北口駅前周辺は、再開発が行われた地域とは違い課題が残されていると思っています。JR北口駅前は降りて左側はビルなどにより土地の有効活用が進んでいますが、右側のパティオビルの裏側は低層建物が多く、駅前という立地を活用されていないと思っています。パティオビルも建築後30年以上経過し、長期的には建替も含めて考えなければならないことと、裏側の一体は道幅も狭く防災面においても課題が残ると感じています。今後の市の方向性をお聞きしました。ご答弁は課題があると認識している。本八幡北口周辺は、都市再開発法に基づき千葉県が策定する「都市再開発の方針」において、計画的な再開発が必要な地区と位置づけられており、これを基本に建築物の更新等と併せた駅前環境の再整備などを、地元と共に考えていくべきと受け止めています。とのことでした。また、駅前に福祉施設の必要性をお聞きしました。市川市社会福祉協議会や福祉相談窓口などを交通の便のよい駅前に設置し、市民の方たちの窓口を増やせないかお聞きしました。現況は難しいが今後必要性を検討していきたいとのことでした。また、流山市で行われている駅前保育ステーションなどはできないかお聞きしました。駅前で子どもを受け渡し送迎バスで保育園に送る方法は今後検討していきたいとご答弁いただきました。駅前と言う立地を市民の方に有効活用できるよう今後も働きかけていきたいと思えます。

映像文化センターについて

- (1) グリーンスタジオの利用時間の延長について
- (2) グリーンスタジオの機材の整備と利用形態に合わせたスタッフの配置について
- (3) ベルホールの整備について
- (4) (仮称)文学館とビデオブースの今後の整備について

市川市の中央図書館の上にある映像文化センターについていろいろな角度からお聞きしました。多目的スタジオやベルホールも含めて現在の開館時間を延長することはできないかという質問に対しては、現在平日は10時～19時30分、土日祝日は10時～18時の開館時間ですが、図書館・子ども館・教育センターなども含めた複合施設のために、独自での開館延長は難しいとのことでした。今後生涯学習センターの運営協議会などで総合的な延長が議論される際に期待したいと思えます。また、グリーンスタジオの機材が開館から17年経ち、本来の目的からはなれた使い方も多量中、機材の入れ替えの検討や舞台の袖にスタッフを置くことによって利用者にも使いやすいようにはできないかお聞きしました。年次計画を立て順次入替をする予定であることと、利用者の目線や声に配慮していきたいとご答弁いただきました。ベルホールはハイビジョン設備の利用頻度が低くなっていることを考え施設の有効活用に向け整備や既存設備の改廃について検討しているそうです。文学館整備計画に向けてビデオブースは改修し、常設展示コーナーとして明るくオープンな空間に整備していく計画であるとのことでした。期待しています。

